

# 7 名古屋工業大学

Nagoya Institute of Technology

## 名古屋工業大学フォーミュラプロジェクト

Nagoya Institute of Technology Formula Project

<http://www.qitc.nitech.ac.jp/formula/>

## 悲願の表彰台へ



### 今回の総合結果・部門賞

- 総合3位 ●ICV総合優秀賞3位 ●国土交通大臣賞 ●日本自動車工業会会長賞
- 耐久走行賞2位 ●省エネ賞2位 ●最軽量化賞 (ICV) 3位

### Profile チーム紹介・今までの活動

名古屋工業大学フォーミュラプロジェクトは、名古屋工業大学ものづくりテクノセンター付属の教育プロジェクトとして、第1回大会より全日本学生フォーミュラ大会に参加しています。

### Team-member チームメンバー

#### 前田 真吾 (CP)

北村 憲彦 (FA)、早川 伸哉 (FA)  
金森 稜平、永瀬 公博、中村 大、高居 京平、  
富田 崇史、松山 大地、渡部 拓、渡辺 猛史、  
大塚 優、出村 捷人、外山 達也、中川 拓洋、  
服部 誠司、引地 健、吉岡 晃一郎、山本 広大、  
澤田 昂明、吉田 侑央

## Presentation

### プレゼンテーション

今年度はチーム目標を「総合得点800pt以上獲得」と掲げ、チーム創設以来初となる悲願の表彰台へ上がるために活動を行ってきました。

車両としては低速コーナーやスラロームが多く、ストレートの割合が少ない日本大会のエンデュランスコースに合わせ、軽量で扱いやすく低回転からフラットなトルクを発揮する単気筒エンジンを、コンパクトで整備性・製作性に優れたスチールスペースフレームに搭載し、各パーツの軽量化を徹底することで、小排気量のパワー不足を補うというコンセプトを引き継ぎました。車両の開発方針としては「技術的裏付けのある車両」をめざし、設計期間では例年以上に前年度車両の評価や試作パーツの評価に力を入れてきました。

4月下旬のシェイクダウン以降はトラブル出し、ドライバー練習やデータ取りのために走行を重ねました。今年度は車両が走行不能に陥ってしまうような大きなトラブルはなく、大会までの間に昨年度のおおよそ倍となる走行距離600kmを達成し、車両の信頼性を高めていくことができました。

## Participation report

### 参戦レポート

大会1日目は技術車検を行ないました。事前にチーム内で何度もレギュレーション確認を行っていた甲斐もあり、無事に一発で合格し、3日目以降の動的審査に備えることができました。

大会2日目は静的審査やプラクティスでのドライバーの最終確認を行ないました。昨年度大会では静的審査で得点を稼ぐことができず、総合得点800pt以上を獲得するためには静的審査で高得点を取る必須でした。しかし、デザイン審査こそ順位を上げることができたものの、コスト・プレゼンテーション審査では昨年度と同程度の順位となってしまいました。この「静的審査の弱さ」については今一度チーム全体で考え直し、改善していく必要があると感じました。

3日目には荒天のためオートクロス審査が中止になるといった波乱もありましたが、最終日のエンデュランスでは2名のドライバーともにパイロントラップを受けるとなく走りきり、3年連続のエンデュランス完走を達成することができました。

最終結果は総合得点726.67ptを獲得し、総合順位はチーム過去最高である3位となることができました。目標としていた800ptには届かず、チームとしてまだまだ多くの課題が残っていることを痛感しましたが、悲願であった表彰台に遂に上がることができたのはメンバー一同非常に嬉しく思っています。来年度はこの1年間の努力が総合3位という結果に繋がった自信を持ち、また1年間の活動を通じて浮き彫りになったチームの弱点にもしっかりと目を向け、更に速い車・強いチーム作りをめざしていきます。

## Sponsors スポンサーリスト

青山製作所、アクセル、アスプロス、アネブル、アルテック、インカワ、出光興産、イブリダセル、岩倉ラヂエター商会、NTN、エア・シー・シー、大塚製作所、岡島パイプ製作所、加藤ギヤー製作所、カレラクリニク、カーベック、菊地シント工業、岐阜ギヤー工業、協和工業、協和精工、共和電業、国美コマース、呉工業、コクビツジール、サカイオーベックス、サクラ工業、ヤマハ発動機、他39社

**Team-Movie** <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/13th/movie/7.html>